

6 美術教育 分科会報告

参加者： 共同研究者＋運営委員

レポート： 高校1本

討議の柱（キーワード）

※学校の中の美術教育

- 美術の存在
- 美術の使命
- 学校文化と美術教育
- 美術教育の普遍性
- 今日的課題・問題・展望（常に展望）
- ICTの活用
- 高等学校教育課程検討協議会とリンク（前日開催）

雑感

本分科会のオンライン開催をいかに継続するかが最大の課題 参加される方々の置かれている状況や生徒作品を持ち寄りお話しすることで 明日の実践につなつなげることができますと思っています 様々な学校種であったり地域的に抱えざるを得ない現状も交流したいところでもあります

美術教育分科会の方向性はある一定淘汰されてはいるものの AIを含むICTを芸術教育の一つのツールとして取り込むことが求められています 多義にわたる活用術は官制研の中でも提言として取りあげている状況があります 機械の活用は我々指導者が思った以上に生徒にとってはハードルが低く垣根を感じさせないという報告が多く 若い世代との交流を強く望みたいところです

手探りで教材に取り込む授業実践は 生徒と指導者が共につくり出す相互昇華の魅力的な時間となるはずです 時代と程よく付き合いつつ五官を使った作品づくりは想像的な思考を創り出す実技教科のるべき姿なのではないでしょうか 答えのない美術だからこそ尚更です

交流を通じて討議の柱をキーワード的に列挙しましたが あくまでも高校の地方美術の現状目線なのです 幼児教育・小学校・中学校・特別支援・大学・今後の美術教育を担う学生さんの声が欲しいところです 園児・児童・生徒の作品交流をすることによってどのようにして作品ができあがったのか その時間が見えれば尚一層魅力的です 年に1度この時期ではではあります互いを確認しあう日になればと願っております

江差高校：十河